

日本小児循環器学会

小児心臓血管外科医 生涯育成プログラム

## 育成プログラムに登場する役割



### 育成プログラム修練医

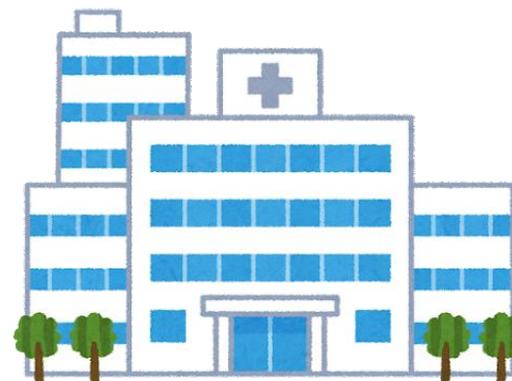
- 1) 日本小児循環器学会の会員
- 2) 本プログラム参加施設に在籍している
- 3) 小児心臓血管外科医生涯育成プログラム規則を遵守できる

申請に必要な書類



様式 1-3

登録料 10,000円



### 育成プログラム参加施設

- 1) National Clinical Database (NCD) およびJCVSDの登録施設
- 2) 育成プログラム指導医の資格を有する外科医が常勤
- 3) 先天性心疾患に対する手術の年間症例数や内容は問わない
- 4) 各施設の育成指導レベルはその施設の育成指導者のレベルまで

申請に必要な書類



様式 6

登録料不要



### 育成プログラム指導医

- 1) 日本小児循環器学会の会員
- 2) 小児心臓血管外科医生涯育成プログラム規則を遵守できる
- 3) 心臓血管外科修練指導医、若しくは心臓血管外科専門医を一回以上更新
- 4) 術者経験が200例以上ある
- 5) プログラム開始後は手洗いの20%以上を「指導的助手」として従事する

申請に必要な書類

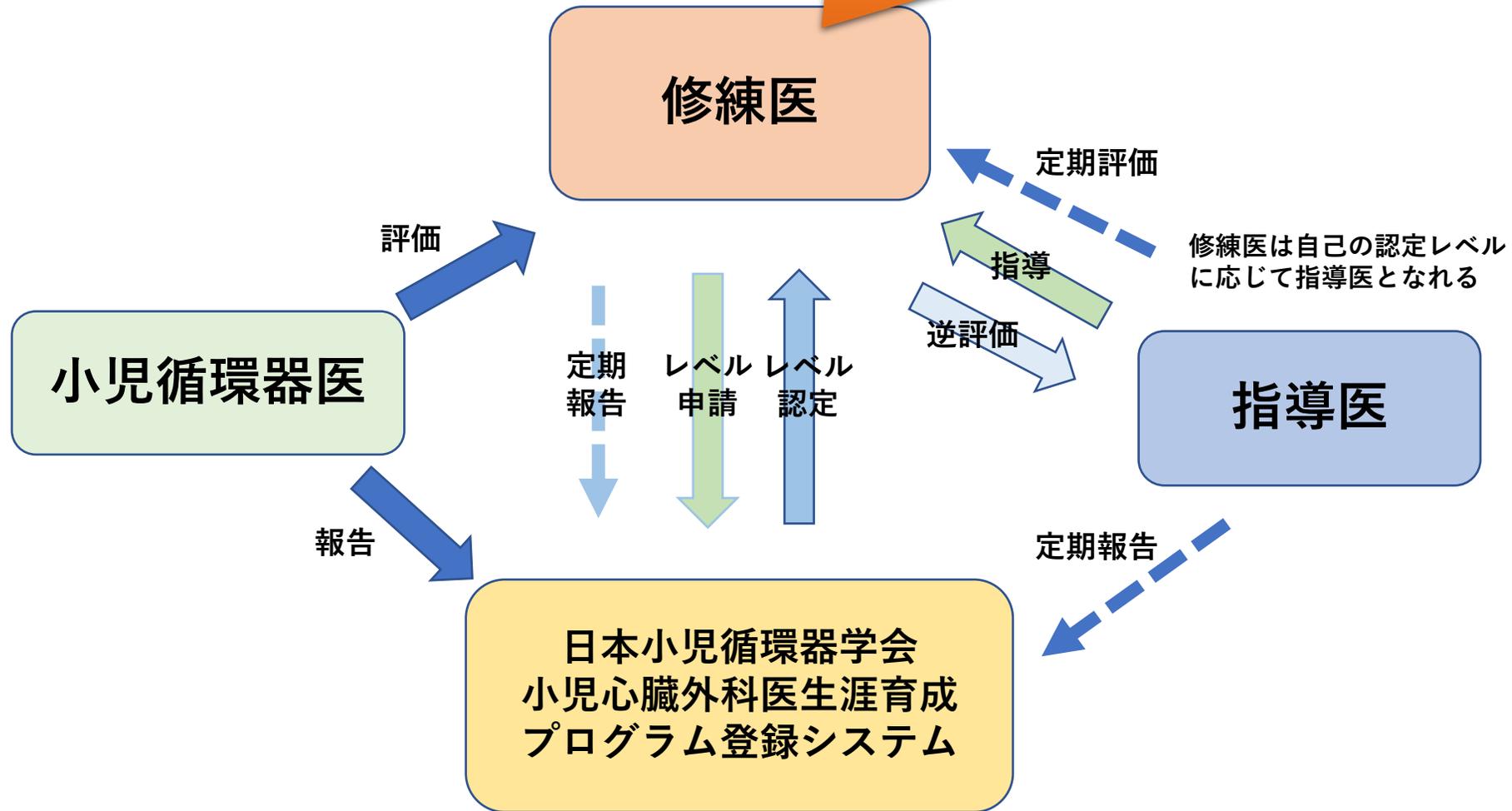


様式4, 5

登録料不要

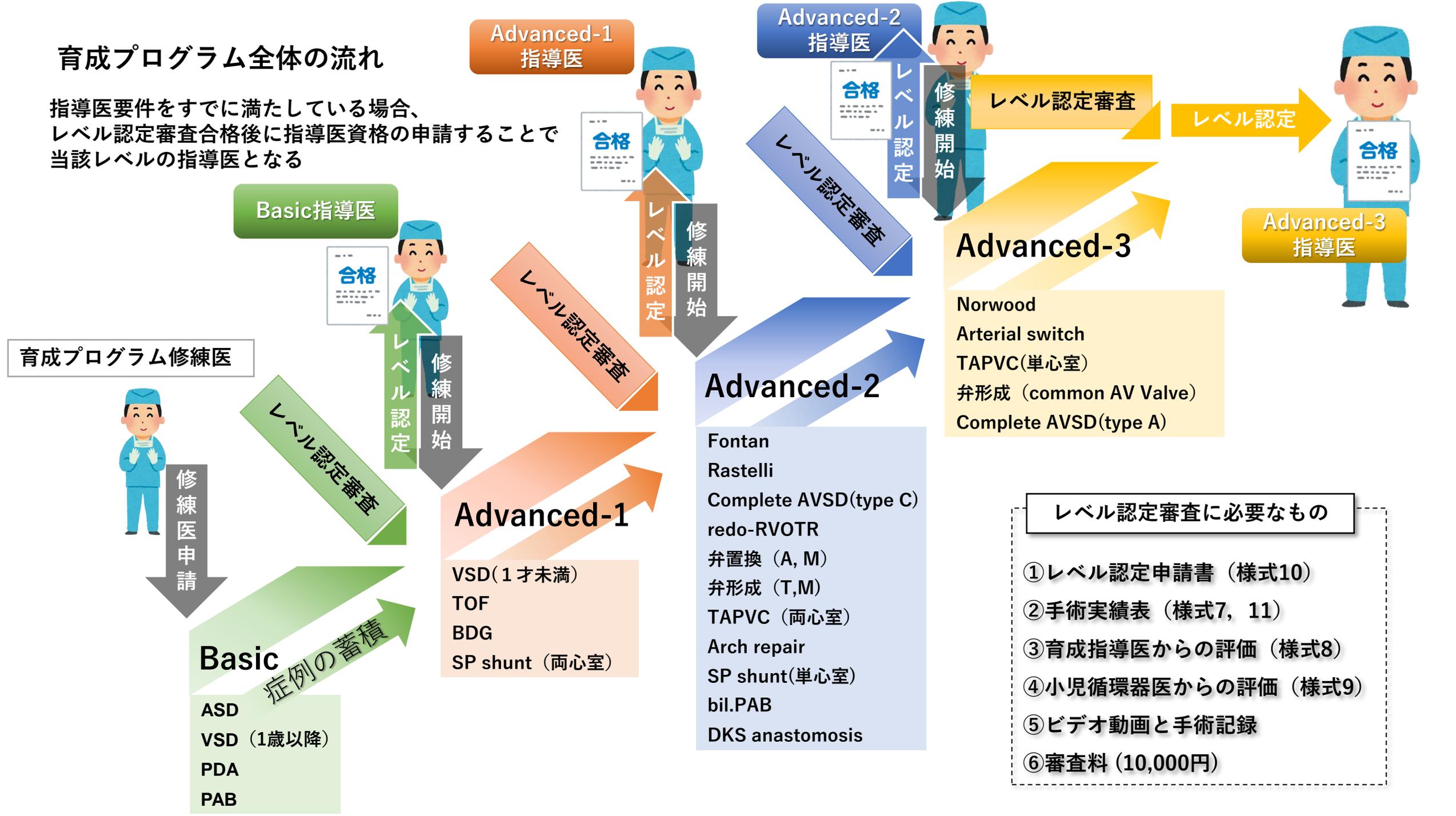
## 実施要綱 2. 育成プログラム概要

育成プログラム指導医がいる育成プログラム参加施設でのみ  
レベル認定に必要な症例カウント可能



# 育成プログラム全体の流れ

指導医要件をすでに満たしている場合、  
レベル認定審査合格後に指導医資格の申請することで  
当該レベルの指導医となる



Basic指導医

Advanced-1  
指導医

Advanced-2  
指導医

Advanced-3  
指導医

育成プログラム修練医

Basic

- ASD
- VSD (1歳以降)
- PDA
- PAB

Advanced-1

- VSD (1才未満)
- TOF
- BDG
- SP shunt (両心室)

Advanced-2

- Fontan
- Rastelli
- Complete AVSD (type C)
- redo-RVOTR
- 弁置換 (A, M)
- 弁形成 (T, M)
- TAPVC (両心室)
- Arch repair
- SP shunt (単心室)
- bil.PAB
- DKS anastomosis

Advanced-3

- Norwood
- Arterial switch
- TAPVC (単心室)
- 弁形成 (common AV Valve)
- Complete AVSD (type A)

レベル認定審査に必要なもの

- ①レベル認定申請書 (様式10)
- ②手術実績表 (様式7, 11)
- ③育成指導医からの評価 (様式8)
- ④小児循環器医からの評価 (様式9)
- ⑤ビデオ動画と手術記録
- ⑥審査料 (10,000円)

## 4-(2): 各レベルの手術実績スコア算出法

- 各レベルの認定を得るために必要な手術実績を以下に定める。各術式について、手術終了時の育成指導医による総合評価と手術Quality評価でそれぞれ**総合評価B以上とClass 1の症例を良好な手術**と定め、その最低必要数と各レベルにおける最低必要総数を以下に示す。
- Advanced-1以上の術式では重複を認める（例：BDG+DKSの症例はそれぞれの術式としてカウント可）。

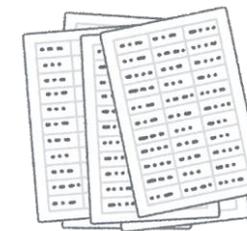
		育成指導医による総合評価B以上+手術Quality評価 Class1の最低必要数	レベル内最低必要総数
Basic	ASD	4	20
	VSD (1歳以降)	6	
	PDA	3	
	PAB	3	
Advanced-1	VSD (1歳未満)	8	25
	TOF	4	
	BDG	4	
	SP shunt (二心室)	4	
Advanced-2	Fontan	4	40
	Rastelli	3	
	CAVSD (type C)	3	
	redo-RVOTR (PVR含む)	4	
	弁置換 (A, M)	3	
	弁形成 (T, M)	4	
	TAPVC (二心室)	3	
	Arch repair	4	
	SP shunt (単心室)	3	
	bil.PAB	3	
DKS	3		
Advanced-3	Norwood	3	20
	Arterial switch	4	
	TAPVC (単心室)	3	
	弁形成 (A, common AVV)	3	
	CAVSD (type A)	3	

## 5. レベル認定審査の申請と認定基準

### 申請

修練医はレベル認定審査申請時に以下の書類を提出する。

- ①レベル認定審査申請書（様式10）
- ②手術実績表（様式7, 11）
- ③育成指導医からの評価（様式8）
- ④小児循環器医からの評価（様式9）
- ⑤ビデオ動画と手術記録（動画の様式：手術記録（PDF ファイル）は個人情報を消したもの）
- ⑥審査料 10,000円を学会事務局へ振込



### 認定基準

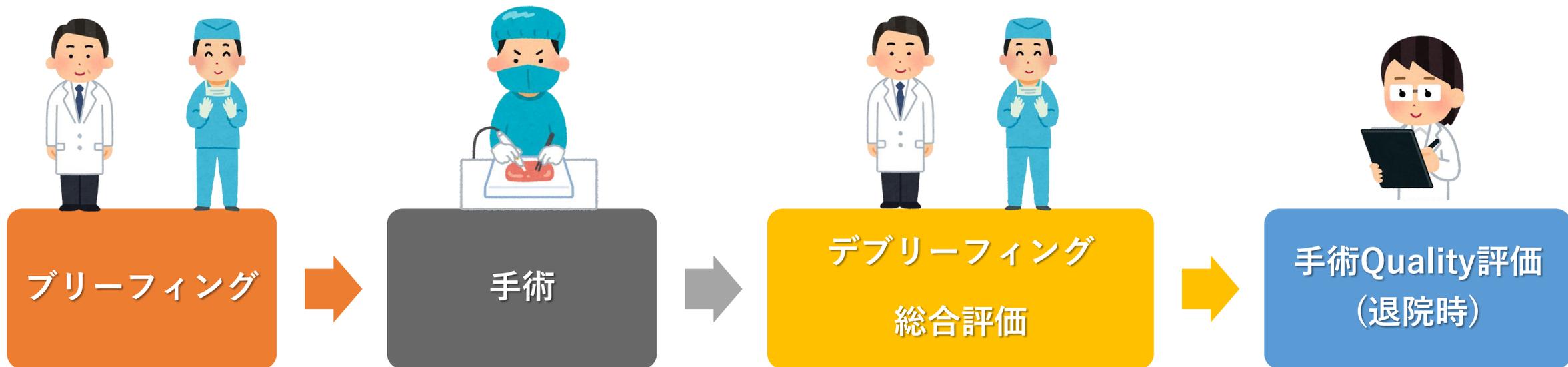
1. 必要な手術実績（Class1+育成指導医による総合評価B以上の最低必要数およびレベル内最低必要経験数）を満たしていること
2. ビデオ評価でD判定がないこと、またはC判定が2つ以上ないこと
3. 「育成指導者からの評価」と「小児循環器医からの評価」でC判定がないこと

**以上の条件を全て満たせばそのレベル認定とする**



## 日々の手術で行うこと

修練医の術者としての自主性と積極性を養い、  
また自己の手術における問題点を客観的かつ明確に判断する能力を身に付け、  
自己の技術向上のための目標設定と努力ができる



### <術前ブリーフィング>

- 対象患者の疾患と特有の問題点について
- 手術適応について
- 予定術式の選択について
- 術中の注意点について
- 当該術式において前回の反省点

### <術後デブリーフィング>

- 何がうまくいったか
- 何がうまくいかなかったか？
- 次回執刀に向けての改善点はなにか？
- 次回執刀までに行うべきこと

### <総合評価>

- A. 完全に独立して手術ができた
- B. 部分的な指導のもと手術ができた
- C. 指導がなければ手術は完遂しなかった  
(主要手技の多くの部分で指導が必要であった)
- D. 指導によっても手術を完遂できなかった

### <手術Quality評価>

- 本育成プログラム用の手術Quality評価基準をもとに患者の退院時、または術後30日(前後)での内科医によるエコー評価で行う
- 各「subprocedure」についてClass 1からClass 3の3段階評価を記入
- 総合的な手術Quality評価は全てClass 1であれば、Class 1, 1つでもClass 2があればClass 2となる

## 修練と指導の定期モニタリング

6か月ごとに委員会へ報告

育成プログラム修練医

修練進捗状況（様式14）

修練医による指導者の逆評価（様式13）



育成プログラム指導医

手術症例数（様式15）



指導医による修練医に対する定期評価（様式12）



ハラスメントも報告可能